

平成30年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年5月10日

上場会社名 株式会社オウケイウェイヴ 上場取引所 名  
 コード番号 3808 URL https://www.okwave.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)兼元 謙任  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長 (氏名)野崎 正徳 (TEL)03(5793)1195  
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年6月期第3四半期の連結業績(平成29年7月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第3四半期	1,900	8.6	216	324.2	198	187.2	136	111.1
29年6月期第3四半期	1,750	△3.1	50	△59.3	68	△45.3	64	9.1

(注) 包括利益 30年6月期第3四半期 141百万円(181.1%) 29年6月期第3四半期 50百万円(△14.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第3四半期	15 59	15 40
29年6月期第3四半期	7 39	7 36

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第3四半期	2,164	1,679	76.7
29年6月期	1,850	1,491	80.0

(参考) 自己資本 30年6月期第3四半期 1,659百万円 29年6月期 1,479百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0 00	—	0 00	0 00
30年6月期	—	0 00	—		
30年6月期(予想)				0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年6月期の連結業績予想(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	49.3	1,000	495.6	950	419.5	900	627.7	102 85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年6月期3Q	8,750,300株	29年6月期	8,732,200株
② 期末自己株式数	86株	29年6月期	60株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	3,735,329株	29年6月期3Q	8,730,099株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

## ① 全般的概況

当第3四半期連結累計期間（平成29年7月1日～平成30年3月31日）における売上高は、エンタープライズソリューション事業において主要製品「OKBIZ.」の売上が順調に拡大していること、また、ナレッジインテリジェンス事業において、子会社OKfine LTD.でのブロックチェーンおよび仮想通貨関連のコンサルティングサービスが受注を伸ばしていることにより、1,900,348千円（前年同期比8.6%増）となりました。

利益面においては、とりわけ、子会社における専門性の高い付加価値サービスの提供による原価構造の改善をはじめ、業務効率の改善、外注費や広告宣伝費等の適正な運用を継続して進めることで、営業利益は216,028千円（前年同期比324.2%増）、経常利益は198,071千円（前年同期比187.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は136,170千円（前年同期比111.1%増）と全てにおいて増益となりました。

	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	1,900,348	149,968	+8.6
営業利益	216,028	165,104	+324.2
経常利益	198,071	129,106	+187.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	136,170	71,679	+111.1

## ② 事業別概況

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

## ・ ナレッジインテリジェンス事業の概況

ナレッジインテリジェンス事業では、日本最大級のQ&Aサイト「OKWAVE」の運営や3,000名以上の専門家が回答してくれる「OKWAVE Professional」などを運営しており、また、顧客参加型サポートコミュニティツール「OKBIZ. for Community Support」、「OKWAVE JOIN」、「OKBIZ. AI Knowledge」など、Q&Aサイト「OKWAVE」と連携した企業向けサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、マレーシアに設立した子会社OKfine LTD.によるブロックチェーンおよび仮想通貨関連のコンサルティングサービスが売上を伸ばし、増収増益を達成しました。同サービスは同社による仮想通貨導入・運用コンサルティングに加え、「OKWAVE」運営で培ってきたマーケティングサポートが特色の一つとなっています。その一環として、「OKWAVE」での仮想通貨関連企画の推進、連続TVドラマの制作協力など、仮想通貨周辺領域における当社グループのプレゼンスの向上を図る施策を推進しました。

このほか、AI分野においては、慶應義塾大学医学部眼科教室と診エテック㈱との取り組みによる「眼底の疾患をスクリーニングするAI」の開発を通じたAI画像解析への取り組みや、企業導入が進む対話型AIエージェントサービス「OKBIZ. AI Knowledge」のAPIを活用したスマートスピーカー向けのAI音声Q&Aアプリの開発など、次世代サービス提供に向けた研究開発も進めています。

以上の結果、業績は次のとおりとなりました。

	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	406,563	110,272	+37.2
セグメント利益	88,396	149,012	—

## ・エンタープライズソリューション事業の概況

エンタープライズソリューション事業では、FAQ（よくある質問）を作成、編集、公開する一連の流れを搭載した、特許技術を有するシステム「OKBIZ.（オウケイビズ）」を提供しています。当事業のビジネスモデルは、「OKBIZ.」導入に際する初期構築費と月額利用料ならびに利用量に応じた従量課金にて構成しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、「OKBIZ.」の新規受注が堅調に推移し、とりわけ、今期の成長戦略であるパートナービジネスの拡大により、当四半期はパートナー企業による間接販売が伸長し、前年同期比6.3%増の売上成長を遂げています。利益におきましても前年同期比15.0%増と、引き続き増益を達成しています。

以上の結果、業績は次のとおりとなりました。

	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	1,033,970	61,374	+6.3
セグメント利益	577,873	75,582	+15.0

## ・多言語CRM事業の概況

多言語CRM事業は、連結子会社の㈱ブリックスにて運営している24時間365日体制の多言語コンタクトセンターです。

当第3四半期連結累計期間におきましては、訪日外国人客の増加や東京五輪開催決定を追い風に、地方自治体や医療分野、鉄道などの案件が増加しております。これにより多言語コンタクトサービスの基幹事業である電話通訳の案件が堅調に伸びております。前年同期は一時的な受託案件があったため前年同期比では売上は減少したものの、費用の見直しを継続的に実施していることから利益は引き続き伸長しました。

以上の結果、業績は次のとおりとなりました。

	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前第3四半期連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	459,813	△21,679	△4.5
セグメント利益	116,305	15,526	+15.4

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (ア)資産

当第3四半期連結会計期間末における資産残高は、主に「現金及び預金」が減少したものの、「販売用不動産」の増加により2,164,869千円（前連結会計年度末比313,902千円増加）となりました。

## (イ)負債

当第3四半期連結会計期間末における負債残高は、主に「前受金」、「長期借入金」及び「未払法人税等」の増加により485,287千円（前連結会計年度末比125,895千円増加）となりました。

## (ウ)純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、主に「利益剰余金」の増加により1,679,582千円（前連結会計年度末比188,007千円増加）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年4月4日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

一部の項目について簡便な会計処理を適用しておりますが、重要なものではありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	799,481	758,783
受取手形及び売掛金	372,742	376,819
販売用不動産	—	93,630
商品及び製品	—	10,000
仕掛品	150	20,122
その他	108,863	162,981
貸倒引当金	△873	△752
流動資産合計	1,280,363	1,421,584
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	74,870	75,547
減価償却累計額	△61,320	△62,055
建物及び構築物(純額)	13,549	13,492
工具、器具及び備品	388,592	430,107
減価償却累計額	△322,126	△339,237
工具、器具及び備品(純額)	66,466	90,869
有形固定資産合計	80,015	104,362
無形固定資産		
ソフトウェア	69,880	68,661
ソフトウェア仮勘定	3,400	64,611
その他	15,514	15,896
無形固定資産合計	88,795	149,169
投資その他の資産		
投資有価証券	235,421	300,212
その他	224,759	257,300
貸倒引当金	△58,388	△67,759
投資その他の資産合計	401,792	489,753
固定資産合計	570,603	743,285
資産合計	1,850,967	2,164,869
負債の部		
流動負債		
買掛金	40,157	39,915
未払金及び未払費用	176,101	187,345
未払法人税等	24,961	45,144
1年内返済予定の長期借入金	7,200	16,550
その他	61,677	111,765
流動負債合計	310,097	400,720
固定負債		
長期借入金	16,400	51,650
資産除去債務	32,894	32,917
固定負債合計	49,294	84,567
負債合計	359,392	485,287

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	984,017	988,421
資本剰余金	953,817	989,846
利益剰余金	△438,600	△302,430
自己株式	△36	△85
株主資本合計	1,499,198	1,675,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	△1,211
為替換算調整勘定	△19,239	△14,547
その他の包括利益累計額合計	△19,239	△15,758
新株予約権	10,837	8,712
非支配株主持分	778	10,875
純資産合計	1,491,574	1,679,582
負債純資産合計	1,850,967	2,164,869



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成30年3月31日)
売上高	1,750,379	1,900,348
売上原価	881,963	926,228
売上総利益	868,415	974,119
販売費及び一般管理費	817,492	758,091
営業利益	50,923	216,028
営業外収益		
受取利息	1,013	3,487
受取配当金	—	198
為替差益	18,467	—
貸倒引当金戻入額	4,007	—
雑収入	625	1,746
営業外収益合計	24,114	5,431
営業外費用		
支払利息	525	402
為替差損	—	8,205
支払手数料	5,000	4,750
貸倒引当金繰入額	—	9,371
雑損失	547	660
営業外費用合計	6,073	23,388
経常利益	68,964	198,071
特別利益		
固定資産売却益	300	—
投資有価証券売却益	1,840	—
新株予約権戻入益	388	86
特別利益合計	2,528	86
特別損失		
固定資産除却損	109	413
減損損失	3,034	—
投資有価証券評価損	—	2,693
特別損失合計	3,144	3,107
税金等調整前四半期純利益	68,349	195,050
法人税、住民税及び事業税	4,574	44,232
法人税等調整額	—	12,925
法人税等合計	4,574	57,158
四半期純利益	63,774	137,891
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△715	1,721
親会社株主に帰属する四半期純利益	64,490	136,170

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成30年3月31日)
四半期純利益	63,774	137,891
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△1,211
為替換算調整勘定	△13,478	4,692
その他の包括利益合計	△13,478	3,480
四半期包括利益	50,296	141,372
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	51,011	139,651
非支配株主に係る四半期包括利益	△715	1,721

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ナレッジインテ リジェンス事業	エンタープライ ズソリューション事業	多言語CRM 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	296,291	972,595	481,492	1,750,379	—	1,750,379
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,250	114	2,364	△2,364	—
計	296,291	974,845	481,607	1,752,744	△2,364	1,750,379
セグメント利益 又はセグメント損失 (△)	△60,615	502,291	100,778	542,454	△491,530	50,923

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに  
帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ナレッジインテリジェンス事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該  
減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては3,034千円であります。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年7月1日 至 平成30年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	ナレッジインテ リジェンス事業	エンタープライ ズソリューション 事業	多言語CRM 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	406,563	1,033,970	459,813	1,900,348	—	1,900,348
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,825	2,250	—	6,075	△6,075	—
計	410,388	1,036,220	459,813	1,906,423	△6,075	1,900,348
セグメント利益	88,396	577,873	116,305	782,575	△566,547	216,028

(注) 1 セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、第1四半期連結累計期間より、企業戦略を明確化することを目的として、従来「ソーシャルメディア事業」と表示していたセグメントの名称を「ナレッジインテリジェンス事業」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントについても、変更後の名称で表示しております。